

交通安全とやま



No.400 令和7年秋冬号 発行者／公益財団法人富山県交通安全協会・交通安全活動推進センター

令和7年度交通安全フォーラム 富山県交通安全県民大会の開催



交通安全栄誉章「緑十字銅章」表彰（交通安全功労者・優良安全運転管理者・優良運転者）の受賞者代表に翠田章男富山県交通安全協会会長より表彰状の伝達が行われました。

交通事故ゼロを目指し、意識のリレーを



砺波市交通安全協会
会長
坂本 吉隆

会報の「交通安全とやま」は、富山県内の各市町村交通安全協会の様々な活動を拝見できる素晴らしい会報だと感じながら毎回拝読させて頂いています。我々、砺波市交通安全協会も昭和23年11月に設立されて以来、77年の歴史を有し、現在は21支部が市民とともに活動を展開しています。

当協会は、「ゆずりあう心でひろがる無事故の輪」のスローガンのもと、県民運動の基本である「3アップ運動」（マナーアップ、チェックアップ、ライトアップ）を通じて富山県内の信号機のない横断歩道における一時停止率が31・6％（令和6年度JAF調査）と全国平均より著しく低いなどの市民の生命を脅かすような事例に対応する運動などを展開しています。また、道路交通法改正により自転車を含む小型モビリティの交通ルールの徹底、自転車利用者のヘルメットの着用など若年層に対しての広報啓発活動も展開しています。

その活動の取組みの一環として次世代に繋ぐ活動として、令和7年夏の交通安全県民運動期間中に、砺波市立庄東小学校において、庄東小学校、般若中学校の両校全校生徒が一堂に会し、「小学生から中学生へ、中学生から大人へ」をスローガンとする合同交通安全教室を開催しました。これは若年層の交通安全意識の向上と次世代への継承を目的とした画期的な取組みでした。交通安全教室では交通安全教育車の体験に加え、般若中学校のサイクル安全リーダーの2名が小学生に自転車の正しい乗り方を指導しました。更に、生徒たちは地区別（8地区）に

分かれ、電子黒板やグーグルマップを活用して、中学生から小学生に通学路の危険箇所を具体的に説明し、注意点を分かり易く伝えました。最後に小学生から中学生へ、そして中学生から大人へとリレー形式で交通安全宣言を行い、次世代への交通安全意識の高揚とリレーが実現しました。体験型の教育を通じて子供達が自らの命を守る行動を学び、その意識が家庭や地域に波及することを期待しております。この様な新しい活動の試みを交えながら砺波市の交通事故ゼロを目指しています。

また、当協会の多岐にわたる交通安全活動は、長年にわたり市民からの賛助金や協力金により支えられてきた事に心より感謝申し上げます。

しかしながら、社会環境の変化に伴い、賛助金や協力金の減少傾向は、協会の活動継続を脅かす重大な危機と認識しております。交通安全という公益性の高い事業を安定的に継続するために財源の多様化と組織基盤の強化が不可欠と考えています。当協会では財務の透明性を図り、賛助金や協力金が具体的な交通安全活動に活用されている事実を明確に訴求しています。

また、当協会の広報紙「とやま交通安全だより」に企業協賛金を活用したり、砺波市が行っていた高齢者運転免許自主返納事業の事務の一部を委託頂いたりするなど多様な財源の確保を目指しています。

今後とも砺波市交通安全協会は、砺波警察署、砺波市、市内各自治振興会など関係各機関、団体の皆様方と緊密な連携を図り、「安全、安心な砺波市」となりますように市民の皆様とともに「交通事故ゼロ」を目指して交通安全活動を推進してまいりますので、どうかご協力賜りますようお願い申し上げます。

令和7年度交通安全フォーラム 富山県交通安全県民大会の開催

（261人22団体を表彰）
9月3日（水）富山県民会館ホールにおいて「令和7年度交通安全フォーラム」、並びに「富山県交通安全県民大会」が開催されました。

富山県交通対策協議会（県警察、県教育委員会・県交通安全協会）が主催した第一部「富山県交通安全県民大会」では、表彰に先立ち出席者全員が交通事故犠牲者の冥福を祈り黙とうを捧げ、佐藤（絵副）知事が新田八朗知事のあいさつを代読しました。その後長年にわたり地域の交通安全活動に従事・貢献した個人261人と22団体に表彰状等が授与されました。

受賞者を代表して交通指導員や小矢部市交通安全協会役員として長きにわたり交通安全思想の普及啓発活動に取り組んでいる白川孝二氏が「悲惨な交通事故による被害者が一人でも減るよう、より一層の努力を続けたい」と謝辞を述べ、最後に県交通安全母の会連合会の花田礼子会長が「信号機のない横断歩道での車の一時停止の徹底」、「反射材用品等の着用促進等による、交通安全対策の推進」等を盛り込んだ大会宣言案を読み上げ、参加者の賛同を得て採択されました。

続いて内閣府と富山県が共催して行った第二部「令和7年度交通安全フォーラム」では、新潟大学工学部・教育学部の村山敏夫准教授が基調講演し「パネルディスカッション」も行われました。

受賞者はつぎのとおりです。
【富山県部門功労表彰】
個人・山本晃正、中山信昭、國谷伸五、野中律子、白川孝二

【富山県交通対策協議会表彰】

個人・石崎武志、花田礼子、牧田博明、橋本恭、古市猛廣、木村和子、大楠匡子、榎悟常、
団体・入善町交通安全母の会、みつば保育園らいちようクラブ

【中部管区警察局長・中部交通安全協会協議会長表彰】

交通安全功労者・新庄洋ほか11名
優良運転者・石坂智雅子ほか19名
交通安全功労団体・二口地区長寿会
【富山県警察本部長・富山県交通安全協会会長表彰】

一般交通安全功労者・浅草隆ほか10名
交通安全功労団体・
〔学校〕富山市立月岡小学校ほか3校
〔一般〕YKK株式会社黒部事業所ほか14事業所

優良交通指導員・地域交通安全活動推進委員・澤川勝美ほか20名
優良運転者・西村正ほか63名
支部協会功労役職員・井田道秋ほか15名
【全日本交通安全協会会長表彰（交通安全章「緑十字銅章」）】

交通安全功労者・岩崎修ほか28名
優良安全運転管理者・土肥孝之ほか9名
優良運転者・大坪君子ほか47名
【富山県交通安全協会会長表彰】

交通安全功労警察官・木倉宏泰ほか16名



中部管区警察局長・中部交通安全協会協議会長連名表彰を受ける方々

第57回交通安全こども自転車全国大会

〔南砺市立南砺つばき学舎団体総合14位〕
8月6日（水）、東京ビックサイト（東京都内）等において「第57回交通安全こども自転車全国大会」が猛暑のなか開催されました。

この大会には各都道府県の代表42校の選手168人が集い学科テストと実技（法規、技能）テストで競いました。当県代表として出場した南砺市立南砺つばき学舎〔平松蒼唯（小5）、中島悠月（小5）、高田玲奈（小5）、平田想（小6）〕の児童たちは、上位入賞を目標に夏休み期間中も練習に励み大会に挑みました。
結果は団体総合14位で惜しくも目標に一步届きませんでした。それぞれがベストを尽くし思い出に残る有意義な大会となりました。



団体総合14位と大健闘した南砺市立南砺つばき学舎の選手たち

第3回シルバーライビングコンテストの開催

10月18日（土）県運転教育センターにおいて、高齢者を対象に自動車の安全運転を

するための知識と技能を再確認し、習慣付けることにより、自動車事故の防止とナール向上を図ることを目的に、県警察・県交通対策協議会・県老人クラブ連合会の協力を得て「第3回シルバーライビングコンテスト」を開催しました。

コンテストには県下15支部交通安全協会から65歳以上の高齢者32名（16チーム）が参加して学科テストと実技テストに取り組んだ結果、団体の部は戸出西部支部（高岡①）、個人の部は荒木敏一さん（高岡①）が優勝しました。

また、競技の合間に視野診断計や動体認知測定装置などの体験を行い、自身の身体機能もチェックしてもらいました。

コンテストの入賞者は次の皆さんです。
団体・優勝 戸出西部支部（高岡①）、準優勝 中田支部（高岡②）、第3位 スマイリー釜ヶ淵（立山）

個人・優勝 荒木敏一（高岡①）、準優勝 明稔（富山南）、第3位 山本和夫（南砺）、④木本勉義（高岡①）、⑤岡部正（上市）、⑥金山範雄（立山）、⑦長谷川修（射水）、⑧大懸昭春（黒部）
敢闘賞・浅倉日登美（立山）



狭路通行にチャレンジする選手

地域交通安全活動推進委員

ブロック研修会の開催

10月中に県内4カ所(富山・高岡・魚津・砺波)で、地域交通安全活動推進委員を対象にした研修会を県交通安全活動推進センターの主催で開催しました。

※地域交通安全活動推進委員とは、地域交通に関するモラルを向上させ、交通安全の確保について理解を深めるためのリーダーの事を指します。

研修会では県警察本部から講師を招き、県内の交通事故情勢、来年度から始まる自転車の青切符導入などの道路交通法改正点、及び推進委員の心構えや活動要点についての説明を行いました。参加した推進委員からは、「引き続き地域の交通安全リーダーとして交通事故ゼロを目指して活動したい。」との声が多く聞かれました。



自転車の青切符導入などの道路交通法改正点の説明を受ける推進委員

自転車安全教育指導員

養成講習会の開催

10月28日(火)県交通安全公園交通安全博物館等において、県自転車安全教育推進委員会が主催して「自転車安全教育指導員養成講習会」を開催しました。

講習会には県内各地から新規の指導員を含む16名が参加し、各地域で実施される自転車教室などで指導する際の要領や注意点を習得しました。

参加した指導員からは、「来年度から始まる青切符導入や車両の点検整備ポイントの説明が大変参考になった。今後指導する際に活かしていきたい」との声が多く聞かれました。

北陸三県統一

年末の交通安全県民運動の実施

年末は降雪・凍結等により道路環境が悪化する中で、気ぜわしさもあいまつて、交通事故が多発する傾向にあります。

また、飲酒の機会も増えることから、交通ルールの遵守とマナー向上を呼び掛けることにより、県民の交通安全意識を高め、交通事故防止を図ることを目的として年末の交通安全県民運動が今年も実施されます。

期間

令和7年12月11日(木)～12月20日(土)

スローガン

ゆっくり走ろう 雪のふる里 北陸路

運動重点

1 高齢者の交通事故防止

2 夕暮れ時と夜間の交通事故防止

3 飲酒運転等の悪質・危険な運転の根絶

4 自転車・特定小型原動機付自転車利用時の交通ルールの理解・遵守の徹底とヘルメットの着用促進

活動重点日

- ・12月11日(木)・・・横断歩道おもいやりの日
- ・12月12日(金)・・・飲酒運転根絶の日
- ・12月15日(月)・・・高齢者交通安全呼び掛けの日

- ・12月17日(水)・・・シートベルト・チャイルドシート着用徹底の日
- ・12月18日(木)・・・夕暮れ時と夜間の交通事故防止の日



シニアのための

ドライバーズクリニック

「運転に必要な身体機能を無料で出張検査します」

安全に運転しようという気持ちがあっても、身体機能が低下すると運転に必要な情報がキャッチできなくなったり運転操作が遅れたりして、思いもよらない事故を招くことがあります。

検査機器(視野診断計・動体認知測定装置・ドライブレコーダー・点灯くんミニ)を使用してご自身の身体機能を検査してみませんか？

地域の集まりや事業所で行う交通安全教室などの行事や催し物で出張検査を希望される場合はお住いの地域の支部交通安全協会までお問合せください。



視野診断計:「自分の目がどのくらいの範囲(上下左右)まで見えているか」を検査することができます。

横断歩道

「止まってくれてありがとう」

運動推進中

「一時停止率が60.9%になりました」
当協会と富山エフエム放送、及び県安全運転管理者協会では、県内事業所の協賛を得て6月下旬から8月下旬までの2か月間にわたりラジオCMで信号機のない横断歩道での一時停止(歩行者優先)を県民に呼びかけました。

ラジオCM放送期間中の8月に日本自動車連盟(JAF)が実施した信号機のない横断歩道での車両の一時停止率に関する全国調査の結果によりますと、富山県は全国平均の56.7%を上回り過去最高の停止率となる60.9%で全国22位となり、昨年の全国最下位(31.6%)から脱却することができました。

しかしながら、未だに約4割の車両が一時停止していません。

ドライバーの歩行者優先意識が向上し一時停止する車両が増え横断歩道上での交通事故が1件でも少なくなるよう県民の皆さんのご協力をお願いします。

【ドライバーの皆さん】

信号機のない横断歩道での歩行者優先は、交通マナーではなく交通ルールです。歩行者が渡ろうとしている場合は一時停止し横断を妨げないようにしてください。

【歩行者の皆さん】

ハンドサインでドライバーに横断歩道を渡る意思を伝えてください。また、止まってくれたドライバーに対し「ありがとう」の気持ちを伝えましょう。





各地区の交通安全活動状況

これらの活動は皆様方からいただいた協力金・賛助金で行っています。
これからもご理解とご協力をお願いいたします。



各地区の交通安全活動はこちらからもご覧になれます。

◆高岡交通安全協会◆



高齢者の交通事故防止を図るため、JA共済に協力を得て、「見えチェック診断シミュレーション」などの機材を使った体験型講習会を開催しました。

◆立山町交通安全協会◆



利田長寿会の会員と利田小学校4年生児童と一緒に、腹話術や交通安全クイズに挑戦しながら歩行中や自転車利用に関する交通ルール等を学び、交通安全意識を高めました。

◆黒東交通安全協会◆



高齢者を対象に、反射材の活用や横断歩道の利用とハンドサインの励行を呼びかける「たっしゃけ 気づけられえ」キャンペーンを実施しました。

◆氷見市交通安全協会◆



谷屋チェーン脱着場において、「横断歩道は歩行者優先」のチラシとりんごをドライバーに配布する「交通安全マナーUP(アップ)ルキャンペーン」を実施しました。

◆富山中央交通安全協会◆



保育園等約100人が手作りの交通安全旗等を振り、道行くドライバーに交通ルールの遵守と交通事故防止を呼び掛けました。

◆黒部市交通安全協会◆



黒部警察署管内の死亡事故ゼロの記録が450日を達成したことから、当協会黒部支部の日頃の交通安全活動に対して黒部警察署長より県警本部長感謝状の贈呈がありました。

◆砺波市交通安全協会◆



般若中学校の生徒代表に、自転車の正しい乗り方と知識・技能を身に付け、他の生徒の模範になる様、交通安全リーダーと記された腕章を交付しました。

◆富山南交通安全協会◆



管内の幼稚園などで、模擬横断歩道を使用した交通安全教室を開催しました。横断歩道を上手に渡れた園児を「くまちゃん」が出迎えると、園児は大喜びでした。

◆魚津市交通センター◆



シートベルト・チャイルドシート着用徹底の日に、魚津警察署中央交番前で魚津産の「20世紀梨」を配布する、交通事故「なし(梨)」シートベルト着用キャンペーンを実施しました。

◆南砺市交通安全協会◆



山野保育園長園児が扮する警察官「やまのキッズポリス」が「安全運転しんまい(新米)けー」と銘打ち、新米と交通安全チラシを運転者に手渡し安全運転を呼び掛けました。

◆富山西交通安全協会◆



管内17の小学校に交通安全スローガンを募集したところ、273作品の応募があり、優秀作19点を表彰しました。同作品はファボーレで展示後、富山西署でも展示します。

◆滑川市交通安全協会◆



園児とその保護者や祖父母が交通安全について楽しく学ぶ「三世代交流交通安全フェスティバル」を交通安全母の会と共に開催しました。

◆小矢部市交通安全協会◆



「稲葉山から世界へ届け交通安全メッセージ発信キャンペーン」と題し、メルヘンポリスが交通安全の願いを込めた「交通安全メッセージカード」を付けた風船を一齐に飛ばしました。

◆射水交通安全協会◆



射水市戸破地区において、当協会、射水警察署、射水市との共催で高齢者の交通安全意識の向上と交通ルールの遵守を図るため、交通安全ウォークラリー大会を開催しました。

◆上市区域交通安全協会◆



大岩山日石寺の六本滝において、地域住民の夜間の交通事故防止を願い、反射材付のタスキとLEDリストバンドを身に付けて、滝行を行いました。